

地図を広げて標をつける

いざ目的地へ

押原中学校
第3学年通信 No.22
2021年3月4日
文責 植松初美

さあ、有終の美を飾ろう！

“カウントダウン・カレンダー”が、いよいよ「卒業まであと6日」と、ひとけたの数字を告げています。

今年度は修学旅行で京都市を訪問できませんでした。しかし京都市のはからいで贈り物が届きました。ステキな絵葉書が4枚です。



四季の名所がきれいに写っています。また、京都への修学旅行を中止した学校の生徒たちに向けて京都市長さんからのメッセージ動画が配信されています。

(公式HP「きょうと修学旅行ナビ」)。お時間がありましたらご覧になってください。和服姿の京都市長さんが皆さんに話しかけてくださっています。

さて、昨日、公立高校後期試験(全日制課程)が終了しました。**Evergreen**のチャレンジャーたちが、これまでの学習の成果を発揮するべく、5教科のテストに挑みました。中学校3年間で学習した内容がどのくらい習得できているかを45分~55分という短い時間

で測られるのはとても大変なことです。どの部分が出題されるかを考えると、どこから手をつけて良いのか不安になることが多かったと思いますが、試験会場から出てきた人たちは「やり終えた。」という顔で終了の確認に来てくださった先生方と話

していたという報告を聞いて、少し安心しました。前回の学年通信のタイトルのように、“**人事を尽くして天命を待つ**”です。結果がどう出るかはわかりませんが、自分が取り組んできたことは事実として残っています。その事実の結果は各個人が真摯に背負っていかなければなりません。どんな結果になろうとも「次のステージ」に向けて積極的に向き合える人であってほしいと思います。私達**Evergreen**の先生方は、皆と同じ方向を向いています。何かあったら声をかけてください。



有終の美とは？

来週の木曜日には、「卒業式」を迎え、翌日からは高校での新しい生活に向けての準備に入ります。そういう意味で「卒業式」は次へのステージに向かう大きな儀式になります。昨年度の学年集会で話しましたが、私達の人生には指のように節(ふし)という大きな区切りがあります。日本では儀式を大切に扱います。なぜならば、そこで気持ちを切りかえるために区切りをつけて新たなスタートに向かおうという姿勢作りがあるからです。来週の「卒業式」はこの区切りのうちでも最も大きなものの一つになります。是非、立派な儀式となるように**Evergreen**の仲間達には意識してほしいと思います。



しかし、当日の態度や行いが素晴らしい区切りにつながるとは思わないでください。

大切な瞬間が輝くためには、事前に準備が必要なのです。

まさに

“有終の美”(物事を最後までやり遂げた美しい終わり)に値するように今日から行動していくことです。

さあ、ここで皆さんに考えてほしいと思います。来年の今頃、青ジャーや赤ジャーの後輩達にどういう形で思い出してもらいたいかを。

Evergreenの先生達は皆のことを心から誇りに思っています。「いつも元気で前向きである。」「やるときにはやる!」「困っている人を見かけたら気にかけてくれる。」「正しくないことがあったら、皆で協力して正していく。」などまだまだたくさんあげられます。でも、「他学年の人たちの目にはどう写っているのか?」という視点を持って考えていきましょう。彼らが先輩である私達に何を求めているのかを。時間があれば学級で話し合っこの6日間の目標を考えてください。後輩の心に残ってほしい私達の姿を。私はこう思っています。

- 「緑ジャージの先輩達がいたときは、学校がとっても明るかった。」
- 「緑ジャージの先輩達は思いやりを持って生活していた。」
- 「緑ジャージの先輩達はいつも学校生活をリードしてくれていた。」

と。皆のこれまでの生活経験からより具体的な行動目標を作りあげてくれたらとても嬉しく思います。

押中生としての最後の生活の中で、大切にしたいこと…

相手に自分がどう覚えておいてほしいか

有終の美を飾ること! この6日間の最大の目標です!